はぐくもう 思いやりの心
人権啓発シンボルマーク
人権擁護都市かに

ぬくもり

2021
77号
令和３年
11月１日発行

住みごこち一番・可児 ―― ～安心、元気、楽しいまち～の推進

祝
本センター
設立30周年
設立年月日
H3.12.7

はぐくもう おもいやりの心
みなさまのおかげです！

子どもの人権講演会

人権教育優秀校表彰式

特別寄稿

ハラスメントにご用心
～人権の実現を目指して～

可児市市民部長　日比野慎治

セクハラ、パワハラ、モラハラ、マタハラ…。ハラスメントって、いったい何種類あるのでしょうか？多すぎて良く分かりませんね。

相手に不快な思いをさせる、尊厳を傷つける、不利益を与える等々のハラスメントは、まさしく人権侵害にあたります。たとえ悪意を持っていなかったとしても、その行為や発言を受けた側に「ハラスメントを受けた」という認識があれば、それは決して許されることではないと思います。

そして、時代が移り変わり、人々の感じ方や価値観も多様化していくなかで、常識と思っていたことが、実は非常識だったりすることもゼロではないでしょう。「以前は問題にならなかったし、この程度のことは大丈夫」と考えているのは自分だけかもしれません。要注意です。

言い換えれば、時代にマッチした人権感覚を身に付けておかないと、いつ当事者になってしまうか分からないということです。そのリスクを回避できるかどうかは、何よりも相手の気持ちを正しく理解しようとする日頃からの心構え次第だと感じています。

そのために、人権教育や人権啓発が重要であることは言うまでもありません。可児市人権啓発センターや学校教職員の皆さまの取り組みが、その一助になりますよう、今後の更なるご活躍を期待しております。

目次

●特別寄稿 ハラスメントにご用心 …… 1
可児市市民部長　日比野慎治
●主な後期活動計画・主な前期活動実績 …… 2
●特集「コロナ差別をなくそう！」 …… 3
●コーナー …… 4
心のドア ちょっといい話、ぬくもりまゆちゃん㊲
啓発ってどんなことをしているの？、啓発のひかり

発行 可児市人権啓発センター（可児市総合会館2F）
〒509-0214 可児市広見1-5　TEL/FAX 0574(63)7990

ホームページ 可児ぬくもりネット 検索
アドレス http://www.kani-nukumorinet.jp/

主な 後期活動計画

可児市人権啓発センター主催 30周年記念 高齢者の人権講演会

高齢者の心元気に!!

入場無料
定員 50 名

コロナ禍でのうつ・認知症予防、頭の体操

いつまでも自分らしく、笑顔で過ごすために！どうすれば、健康に明るく歳を重ねていけるのか。
ストレスと上手に付き合い、自粛生活で**「うつ」「認知症」**にならないために気をつけたいポイントなど、
今からできることを、この講演会で楽しく学んでみませんか？

日時 令和３年 12月4日(土)　13:00～15:00(開場 12:45～)
場所 可児市福祉センター 大ホール（可児市今渡682-1　TEL（0574)62-5329）
講演内容 うつ予防について・脳の健康を維持する頭の体操・食事からの認知症予防 など

お申込み方法・期間 お電話・FAX・メールにて「お名前」「電話番号」をお知らせください。
11 月 30 日（火）締切

お申込み・問合せ 可児市人権啓発センター　TEL/FAX（0574）63-7990
可児市広見 1-5　可児市総合会館 2F ／ E-mail：jinken.nukumori@gmail.com
※定員 50 名（定員になり次第、受付を締め切らせていただきます）

専用申込フォーム

後援：可児市

講師プロフィール

杉浦浩子先生
岐阜医療科学大学 看護学科教授
専門は精神看護学。これまでに病院や福祉施設、自治体などで、子育てやコミュニケーションに関する講演を数多く行っている。

橋本廣子先生
岐阜医療科学大学 看護学科教授
専門は公衆衛生看護（保健師教育）。現在は大学の地域連携室（なないろルーム）で地域住民を対象に活動をしている。

11/11 11/19 子ども・ぬくもり教室（小学校巡回）

帷子小：11/11（木）
兼山小：11/19（金）

12/1～12/10 人権週間啓発活動

人権旗掲揚：市役所・総合会館正面玄関前
庁舎側面懸垂幕

3/1 機関紙「ぬくもり」78号発行（市内全戸配布）

人権マンガまつり

ご自由にご覧ください。
時間　9：00～16：00

12/1～12/15 総合人権マンガ展（福祉センター）
11/27～12/16 人権合同展（図書館と共催）標語・300字小説入賞作品
2/7～2/18 市役所人権マンガ展（市役所ロビーにて）

主な 前期活動実績

5/20～ 小学校「人権本巡回制度」スタート（愛称：ブックス・フロー）

・選考本 70 冊（勇気・友情・希望）
・道徳４コママンガ冊子
・道徳４コママンガ、しおり付

7/1 機関紙「ぬくもり」76号発行（市内全戸配布）

7/5～9/3 「標語・300字小説」募集

［結果］ 令和３年度応募数 …… 2,878 作品
［内訳］ 標語 …… 2,460 作品
300 字小説 ……418 作品

特集 コロナ差別をなくそう!

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、陽性者のみならず、医療従事者をはじめ社会機能の維持に必要な事業の職に就かれている方やその家族に対する差別的言動が見受けられます。
新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見が受診をためらわせ、感染症への万全な対応に支障が出ることも懸念されます。

偏見や差別の事例（偏見や差別は決して許されません）

・感染したことを理由に解雇される
・回復しているのに出社を拒否される
・インターネットで感染者を名指しするような書き込みがあった
・子どもが学校を休むと、同級生にコロナに感染したと言われた
・感染者が、退院後にデイサービスを断られた

偏見や差別によって生じるおそれのある問題

・相談や検診、検査を受けることをためらい、他人に感染させてしまう
・感染が分かっていても職業や行動歴について、口をつぐんでしまう
・ウイルスと結び付けて、精神的に追い込まれ「自分が悪い」と自らを傷つけてしまう

感染者差別 → **深刻な影響を及ぼします** → **感染拡大の温床**

「誰もが感染する可能性がある新型コロナウイルス」ということを理解しましょう！

私たちにできること

市民の皆さんへのメッセージ

一人ひとりが誰に対しても思いやりの気持ちを持って接することが大切

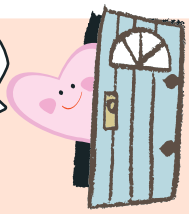
見えない敵であるウイルスへの不安や恐れを感じたときこそ、公的な機関の正確な情報に基づき、冷静な行動をとり、皆さん一丸となって、コロナウイルスと闘っていきましょう。

コロナ差別で悩んでいませんか？（人権相談窓口のご案内）

①**インターネット人権相談**（様々な人権問題に関するインターネット相談）……https://www.jinken.go.jp
②**みんなの人権 110 番**（様々な人権問題に関する相談）…… TEL 0570-003-110
③**子どもの人権 110 番**（いじめ・虐待など子どもの人権の相談）…… TEL 0120-007-110
④**女性の人権ホットライン**（セクハラ・家庭内暴力など女性に関する相談）…… TEL 0570-070-810
⑤**外国語人権相談ダイヤル**（英語、中国語、ポルトガル語を含む 6 か国語での相談）… TEL 0570-090-911

受付時間
②～④：［平日］午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
⑤：［平日］午前 9 時 30 分～午後 5 時

心のドア
ちょっといい話



「しじゅうから」の巣立ち

★数年前に庭の木に小型野鳥用に巣箱を取り付けると「しじゅうから」が子育てを始め、育った幼鳥が巣箱から弾丸のように次から次へと飛び出す巣立ちを見て感動したのがきっかけで、今年も中をきれいにしておいた巣箱を取り付けた。巣箱を見つけた親鳥は、木のてっぺんから警戒しながら少しずつ下りて巣箱に近づき、穴から中を覗いて、広さなどを点検した後、中に入り住み心地を確かめているようだった。家主としては、巣箱を気に入ってくれるか心配になる時だ。気に入ったのか巣材となる苔や犬の毛などをくわえて巣箱に入るようになり、子育ての準備が始まり、安心した。

★朝早くから２羽が虫をくわえて巣箱へ入るようになる。美味しそうな青虫、まずそうな土色の虫、クモなどを運んで来る。餌場が近いこともあり、５分と空けずに運んで来る。孵化したヒナが 15 日位で飛べるまでには大量の餌が必要なのだ。２週間程で穴から外を見ていたヒナが巣箱を飛び出し、続いて３羽が飛び出した。まだ外を気にするヒナがいて、翌日５羽程が巣箱を出た。巣作りからヒナが巣を出るまで、数え切れない程巣箱まで往復する親鳥を見ているからこそ、ヒナが巣箱を出る様子は感動してしまう。古くなった巣箱から新しい巣箱にする計画もしている。　(h・s)

ぬくもりまゆちゃん 37

作・画：miho／監修：k・s

〈感謝を忘れずに〉

（当センター職員による作品です）

啓発ってどんなことをしているの？ その3

ぬくもり教室編

ぬくもり教室は、毎年２校ずつ市内小学校を巡回して人権に関する授業を行い、子ども達にやさしく人権を学んでもらう取組みです。

「人権」を主題としながらも、子ども達に分かりやすいよう身近な問題をテーマとし、「いじめ」「勇気」「差別」など内容を変えながら活動しています。

子ども達に、スライドで紙芝居を見てもらい、内容について考え、発表してもらいます。みんな真剣な表情でスライドを見つめ、発表の際にはたくさん手をあげてくれます。

学童期は、人権教育をするうえで、とても大切な時期です。子ども達が、人権に興味を持つきっかけとなり、その後の人生を心豊かに過ごしてくれたらと思います。

また、準備や活動をともにしてくださる役員・推進員の方々は、協力的で志の高い方が多く、頭の下がる思いです。

制限の多い中ではありますが、関係者の皆様のお力を借りながら、啓発活動を続けていけることに感謝の気持ちがあふれます。

「啓発のひかり」

★コロナ禍で減ったもの：外出、友達とのコミュニケーション（モーニング、ランチ、会食等）、化粧（特に口紅）、ボランティア活動。増えたもの：おうち時間、テレビ・ビデオの視聴、通販のダンボール、カタログ、肌あれ、特に体重（笑）。今一番したい事：何も考えずゆっくり温泉につかりたい。それより元の生活に戻りたいなぁ～！　(m・k)

★コロナ禍であらためて健康の大切さに気付かされる日々。感染しないよう気をつけるのはもちろんですが、自分の免疫力を高めることが大事だと思い、生活を見直すきっかけになりました。なるべくストレスをためずに、少しでも体に良い栄養のあるものをとるよう心掛けています。(y・m)

★今や誰もが百歳まで生きる可能性を持つ時代になりました。定年後の人生をどう生きるか自己目標を明確に持つことが大切だと感じます。隣家のＫさんとの会話は、いつも「ありがとう」という思いやりの言葉をかけていただくことが多く、笑顔になります。Ｋさんのように、周囲の人に喜びを与える人になるには、まだまだ遠いですが、先輩世代のＫさんを目標に温かい人間関係の中で、いきいきと生きていければいいなと考えています。　(m・h)